

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600526
法人名	医療法人ひまわり会
事業所名	グループホーム光
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年12月8日	評価結果確定日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の入居者様やスタッフと顔なじみになり、家族のような「安心できる場所」を提供しています。普通の生活と同じようにお掃除をしたりお洗濯をしたり、お散歩や買い物、ゲームなどのレクリエーションをお楽しみ頂いています。初詣や敬老会など季節の行事はもちろん、演劇など楽しいイベントを通して、地域の人々とふれあう機会を積極的に提供しています。スタッフが手作りで調理を行っています。イベントや行事の際に、お出しする「特別イベント料理」も好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム光は、母体となる医療法人ひまわり会 長主病院が隣接し、近隣にはホームセンターやドラッグストア、百円ショップ等が集積する利便性の高い場所に位置している。また、周囲に広がる田圃のあぜ道での散歩や、開放的な室内空間も含め、豊かな生活環境の中にある。医療との密な連携が可能であることや、研修体制の充実を背景にサービスの質を高めるとともに、食事提供の場面や排泄ケア等、個別に応じた細やかな配慮と実践がうかがえ、本人、家族の安心へと結び付けている。運営推進会議には、入居者や地域住民の参加も多く、現在行政との連携を図りながら、地域初の認知症カフェ開始に向けた取り組みも行われている。入居者本位に基づく日常を大切にしながら、地域密着型サービスとしての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気のもと、共同生活を通して残された能力を可能な限り活かして、明るく潤いのある穏やかな生活が送れるようにケアを実践しています。	地域密着型サービスとしての意義をふまえた理念は、勉強会やカンファレンス等にて振り返る機会を持つようにしている。業務日誌のしおりにも理念が明記されており、日常的に意識するよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の神社のお祭りなどには参加し、神輿や獅子舞は毎年楽しみにし、保育園児の慰問お遊戯会や地元の中学生の体験学習の受け入れ地域のかたによるレクリエーションなど毎月あり交流を図っています。	法人として町内会に加入している。ボランティアの来訪を受け、利用者の方々との交流も盛んである。日常的には散歩時に近所の方と挨拶したり、野菜の差し入れをいただくこともある。川崎町初の認知症カフェの開始に向けて、働きかけを行っているところである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	26年8月に運営推進会議にて認知症サポーター研修を開催しスタッフをはじめ、ご家族様、学生さん地域の方々と理解を深めました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センターの職員、ご家族に参加していただき、毎回新しい議題を交えて向上できるよう取り組んでいる。事業所報告にて最新の状況を報告している。皆様の意見が反映できるようにしている。	定期開催される運営推進会議には、利用者の方々の参加が多く、自己紹介が行われる等、社会参加の機会ともなっている。家族や地域代表者、地域包括支援センターの方々、時には歯科、薬局、美容院等より出席を得る等、多彩なメンバー構成で開催されている。議事録にて意見交換や情報提供の内容について開示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員に相談している。認知症カフェの開始に向けて協力も得られています。年に1度の地域で開催される福祉祭りに向けて作品を出品できるよう申し込みしている。	町役場や地域包括支援センターとは、不明な点の問い合わせや困難事例への対応について協議を行っている。また、川崎町初の認知症カフェの開始に向けて、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて「身体拘束廃止マニュアル」等で理解を深め、やむを得ない場合は同意書を頂いている。権利擁護に繋がるモラル向上に努めています。	年間研修計画の中には、身体拘束や高齢者虐待防止、権利擁護、リスクマネジメント等が組み込まれ、職員の意識を高めるとともに、共有認識を図っている。やむを得ない事例が発生した場合にも解除の視点を確保し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関やエレベーター等の施錠は行われておらず、外出の意向に寄り添うように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	未然に防げ、虐待を起こすことの無いよう常に振り返りを行い職員同士意識している。管理者も厳しくチェックしている。11月「虐待と権利擁護」について職員がより理解を深めるよう勉強会を行いました。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護と成年後見制度についての勉強会を持ち必要な入居者様に助言はしておりますが活用はできていません。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、行政主催の外部研修参加や内部での伝達研修実施、また資料を整備し、必要時には活用に向けた支援が行えるよう体制の整備に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解納得が得られるよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議で意見をお聞きしたり、月初めの利用料支払い時、ご家族の来訪時などに意見を聞き入れより良い職場環境に努めています。	運営推進会議の開催案内は、近隣在住の全ての家族に行われ、積極的な参加を求めている。利用料の支払い時も含め、家族の来訪する機会も多く、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談は行っているが、コミュニケーションをさらに深める努力が必要であると感じているが、可能なものは提案を受け入れている。	職員ミーティングを月1回、ユニット毎に開催し、職員の意見や提案が活発に出されている。また、現在個人面談にも取り組み始めており、職員意見を把握し、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系を見直し、実績に応じてボーナス等の特別手当を考慮している。人員に関しても募集しているが求人が見つかりにくい為、労働時間の負担を軽減させる努力は継続している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢による制限は一切していない。やる気があれば60歳以上でも積極的に受け入れる。チームワークやパフォーマンスを向上できるよう、配置、シフト等も見直しを行っている。	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除はしないようにしている。現在、20代から60代の職員が勤務し、手話や手作りおやつを提供等、得意分野を活かせる機会がある。外部研修の参加を奨励し、費用についてもサポートする等、個々のスキルアップを支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	積極的に、外部講習にも参加してもらい個々の能力を上げる努力を行っている。	権利擁護や尊厳について、高齢者虐待防止、認知症ケア等、内外の研修参加を通じて、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協、麻生教育サービスなどの研修を積極的に受講させている。看護師の配置も行い医療知識の向上にも努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア活動を通じて、同業者訪問する機会を作る予定にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち寄り添いながら、否定せずに接しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい環境づくりをし、ご家族様の不安のないよう心がけています。また、利用者様の少しの変化も見のがさず必ず電話報告しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先して行うべき支援は何かについて考え本人様やご家族様の言葉からも気持ちが汲み取れるよう配慮している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等であり日々の暮らしの中でともに喜怒哀楽を分かち合える関係です。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来所が多く、状況を細やかにお伝えすることで理解と信頼関係を保つようにしています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行きつけであった美容院を利用できるように支援している。また友人など気軽に来所できるようにしており、時には隣組だった方々が来所してくれ近況話などしています。この状況維持し支援していきます。	旧知の方より町の広報誌が届けられたり、馴染みの美容院の利用を支援している。また、遠方に住む家族との電話連絡や年賀状のやり取りを支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの食事お茶の時間を通して関係性が築けている。互いに気をつけてあったり支えあう場面が見られます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰された方に立ち寄って頂いたり、電話で近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念のもとでケアプランに基づいた支援に努めている。	入居時より情報収集に努め、日常の中でも入浴時等の1対1の場面に表出される思いや意向を大切に伝えながら、職員間で共有している。困難な場合には、表情や仕草、家族からの情報等を本人本位に検討し、把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様より伺っている。情報提供からも過去を紐解き支援に役立てるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通しての出来事や状態などチーム内での情報共有を元に日々の変化に気づくことができます。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意思を尊重しつつ、計画書に反映できるようにしている。ご家族様が来訪時には近況報告をしたり意見を頂くようにしている。	本人、家族にできるだけ担当者会議に参加していただき、理念に基づき、その人らしさを介護計画へ反映できるように努めている。定期的なモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について確認している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各フロアごとにミーティングを行い改善すべきことを話し合い記録に残し、職員間で周知できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズに合わせた柔軟な対応はしておりますが、既存サービスもあり、利用者様の気分転換を図るように努力しております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握することから始めて、入居者の方々が能力を発揮できる環境作りをしていく必要がある。地域のボランティアの来所、母体である併設のリハビリ、地域文化祭出展のため作品作り等努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院はもとより、他医療機関にも職員が同行している。	入居時にかかりつけ医に関する希望を確認し、家族とも連携しながら受診を支援している。また、隣接して母体となる医療機関が位置しているため、安心感から入居の動機となるケースもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告行い適切な処置が受けられるように、詳しく状況説明できるよう心がけている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制で併設病院と医療連携をしております 急変時の対応は良好である。 また、院長、師長との情報交換はみつに行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から定期的に診察していただき、その結果報告をご家族にし、終末期をどのような様なかたちで迎えるか等、十分話し合っており、本人、ご家族の希望があれば、看取りケアの説明もしております。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。母体法人を中心として他医療機関との密な連携を図りながら医療ニーズへの対応を行うとともに、状態の変化に応じて関係者での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半数の職員は消防署の救命応急研修に参加しています。定期的に訓練をしています。また、定期的に随時勉強会に取り入れています。母体の病院看護師に相談しながらスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定した防災訓練を行うよう広域連合本部からも指導を受けている。	年2回、出火場所を変更しながら避難訓練を実施し、隣接する母体医療機関との協力体制を確認している。消防設備会社による水消火器を用いた訓練も実施され、今後は近隣の消防団員の方との連携も視野に入れている。	夜間帯やその他の災害を想定した対策や、地域との相互の連携についても、今後の取り組みが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時や居室訪問時はプライバシーに配慮して人権侵害することのないよう、間違った対応をしているときは、注意を促し繰り返すことのないよう喚起している。	声量や口調、方言の使用等について検討しながら、個別の理解と配慮に努めている。研修やミーティングにて振り返る機会を持ちながら、職員の意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時は本人が選んだ飲み物を提供したり、おやつは自由に選択できるように支援しています。また、散歩外出希望がある場合は本人に寄り添い支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしております。散歩や趣味などを優先しており、また買い物に出かける希望ある場合はケアプランに基づいて支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれにこだわりのある方もおられるので、思うようにして頂いている。 今後、ハンドマッサージのできる方のボランティアなどの予定もしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できたての食事が提供できるよう調理し、食事形態も一人一人に合ったものを作っている。献立の希望も聞きとりいれている。下膳、テーブル拭き、トレイ拭き出きる方はしています。	管理栄養士によるアドバイスを得ながら、嗜好やバランス等に配慮された食事を提供している。買い物や各ユニットでの調理を職員が担当し、個別の提供の工夫や代替品の提供等、細やかな配慮が確認できる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し1週間の献立表を協力病院の管理栄養士にチェックしていただいております。水分量のチェックも怠っていません。体調に配慮し、確実に摂取できるよう調整している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには十分配慮しています、毎食後行いできることはご本人様にして頂き、個別で状態に応じたケアの提供をしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	むやみにおむつを使用することのないよう配慮している。昼夜を通して個別の排泄ケアを行っている。本人の習慣に合わせて声掛け誘導を行い自立支援をしている。	排泄チェック表を用い、個人の状況やパターンの把握に努めている。日常の中でのトイレ誘導や機能保持に向けた働きかけ、排泄用品の検討が細やかに行われ、退院後におむつから布パンツへの移行が可能となった事例もあり、排泄の自立に向けた支援が行われている。できる限り自然排便となるよう、食材や水分摂取、運動等にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを知りコントロールできるようにしている。食事でも工夫し繊維食品多く摂るようし便秘による不穏や不快感が少なくなるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調に合わせて変更はあります。本人の入浴希望の強い時は自由に入浴ができるように支援し入浴中話をしながらゆっくり、ゆったり行っています。また、全身清拭、シャンプーを行い支援しています。	毎日お風呂を沸かし、週2～3回程度の入浴を基本として、希望や体調等に応じて柔軟に対応している。ゆっくりとした入浴でリラックスしてもらい、職員とのコミュニケーションを深める機会ともなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で安眠できるよう環境を整え配慮しています。本人の睡眠パターンを尊重し昼間は興味のある活動を取り入れて夜間に睡眠できるようにしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を行い、経過観察に努め症状の改善に最善が尽くせるようにしています。また、毎回定時処方時は主治医に報告し変化ある時は受診し必ず説明は受けています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちぎり絵や音楽教室を開催したり、年間の行事計画を立て楽しんでいただけるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は本人の希望にて散歩や買い物に出かけたり、また、地域行事活動の見学、季節に合わせた外出時はボランティアの方に依り支援を行っています。	近隣には、ホームセンターや百元ショップ、ドラッグストア、洋品店等が集積しており、買い物の利便性は高い。個別や全体行事として、ボランティアの方の協力も得ながら、季節の花見や散歩、買い物等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時は希望するものを購入し、レジでお金の支払いができるように支援しています。また、施設に外部からの販売に来所された場合支払いができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方在住者は頻繁な来所は困難であるため、利用者が連絡したい時には電話ができるように支援しています。また、年賀状等出せるように支援しております。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整え安心して快適に過ごせるようにしている。裏庭の花など摘んできて、飾るように心がけています。また、利用者様のちぎり絵や行事の写真等掲示し楽しんで頂いております。	玄関ホールは大きなガラスを用い、明るくゆとりある広さの共用空間へとつながる開放的な空間が印象的である。食卓やソファ、時には舞台となる和室等、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。観葉植物や季節の花が置かれ、壁面には利用者が書いた習字や絵手紙が飾られ、日々の生活の様子が伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでテレビを観ながら過ごすなどされている。冬は和室に掘り炬燵をだしたりできるような環境になっている。また、昼食後はよく昔ばなしをしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでいただき、居室には大切なご主人様の遺影を置き安心して住める様な環境作りを支援しています。	各居室には、筆筒や仏壇、椅子、テレビ等とともに、思い出の写真や好みの観葉植物が持ち込まれ、個別の雰囲気を作っている。2階は掃出しの窓となっており、開放感一杯で明るい。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に応じた動作ができる環境になっている。共用部分は手摺、温熱器具、コールを設置しており安全で自立した生活ができるように配慮してます。		